

6 本時案

① 主眼

確実にシュートを決めるためにゴール下の空間までボールを運ぶ方法を追究する場面で、守備者の動きとコート上の空間に着目し、攻撃方法の作戦を考えてゲームをすることを通して、ゴール下の空間に走り込んでシュートを打つことができる。

② 本時の評価規準

ゴール下の空間に走りこんでシュートを打っている。

③ 安全上の留意点

安全面の配慮から、ゲーム中はコート外でボールを用いた練習は行わないようにする。

④ 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応 (太字はキーワード)	◆学習内容 ◇教師の指導・援助	時間	備考
はじめ	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。	ア 守備者がゴール下において、すぐに守備者が寄ってくるのでフリーでボールを受けられない。	◇前時の様子を、映像を使い振り返るとともに、本時の学習問題を確認する場を設ける。	7分	ワークシート 作戦シート モニター 黒板 タブレット
		学習問題：ゴール下の空間までボールを運んでシュートを打つにはどのようにしたらよいか			
		イ 攻撃側の人数が多いので、必ず1人はフリーになるから、その人にパスをすればよい。 ウ ボールを持たない人がわざと守備者やゴールから離れて、守備者をゴールから遠いところに動かせばよさそうだ。	◆ゴール下に空間をつくるためにどのような工夫ができそうかを話し合う。 ◇攻撃者だけでなく、守備者の動きにも着目し、考えるように促す。 ◇具体的な動き方を作戦とし、作戦シートに記入するように促す。		
		学習課題：守備者の動きとコート上の空間に着目し、攻撃の作戦の動きを考えてゲームをしよう。			
なか	2 グループごとに作戦会議を行う。	エ ゴール下でパスを待っている守備もゴール下にいるからフリーでシュートを打てない。 オ ゴール下に走り込んでパスが来なかったら、すぐにゴールから離れよう。 カ 外側から順番にゴール下に走りこむ作戦を考えよう。こうすれば、ゴールに向かってフリーでパスを受けられる。	◆コート内で動きながら作戦の動きを考える。 ◇攻撃役と守備役に分かれてコート内で動き、どのようにボールをゴール下に運べばよいかを考えるように声掛けする。 ◇前時の課題点を問い、ゴール下の空間を空けておくことで、フリーでパスを受け取りやすい状況になることをアドバイスする。	15分	ボール ビブス ホワイトボード マグネット
		キ チームで考えた作戦を使ってシュートを打ちたい。 ク ボールをもった人が誰にパスをしたらよいのか、コート外で見て人が声掛けをしよう。 ケ ゴール下の空間に走り込んでパスを受けたら、フリーでゴール下からシュートが打てた。	◆前後半4分ずつのメインゲームのリーグ戦1試合目を行う。 ◇チームで考えた作戦の動きを試すように声掛けをする。 ◇試合間のミーティングでは、作戦シートやホワイトボードを活用し、作戦の動き方を修正する場を設ける。		
か	3 メインゲームを行う。	キ チームで考えた作戦を使ってシュートを打ちたい。 ク ボールをもった人が誰にパスをしたらよいのか、コート外で見て人が声掛けをしよう。 ケ ゴール下の空間に走り込んでパスを受けたら、フリーでゴール下からシュートが打てた。	◆前後半4分ずつのメインゲームのリーグ戦1試合目を行う。 ◇チームで考えた作戦の動きを試すように声掛けをする。 ◇試合間のミーティングでは、作戦シートやホワイトボードを活用し、作戦の動き方を修正する場を設ける。	20分	得点版 記録表
		本時の評価基準に達しなかった生徒への手だて ・ゴール下の空間に動き出すタイミングが分からない生徒には、教師が声掛けをしてタイミングを伝える。			
まとめ	4 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。	コ 外側からゴール下の空間に走りこんでパスを受ければ、ゴール下からフリーでシュートを打てることが分かった。 サ ディフェンスがついていない人を見極めて、パスをすることができた。	◆全体で作戦を実行できたか確認した上で、実行できた理由や残された課題は何かを話し合う。 ◇本時の成果と残された課題をチームで話し合い、全体で共有する場を設ける。 ◇次時の活動内容を問い掛ける。	8分	